

2021年7~9月

## 廿日市市景況調査

Economic survey

## 全国の景況：日本商工会議所

全産業合計の業況DIは、▲33.2（前月比▲3.8ポイント）。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の期間延長に伴う営業制限、イベント中止等の影響が続く中、客足が遠く飲食・宿泊などのサービス業や小売業が悪化した。また製造業では、半導体不足や東南アジアでの感染拡大を背景とする部材調達難など生産活動への影響を指摘する声が聞かれた。公共工事に下支えされた建設業は底堅いものの、鉄鋼や木材などの原材料価格の上昇、天候不順による野菜価格の上昇が業況の押し下げ要因となるなど、中小企業の景況感は一段と厳しい状況にある。

## 廿日市の景況：廿日市商工会議所

※平成17年11月の市町村合併後は、旧廿日市市(合併後の区域)の調査結果

全産業合計の業況DIは▲2.5と前回調査（4~6月）から横這い。産業別では、卸小売業が前回値（▲22.2）から今回値（▲25.0）とマイナス幅が2.8、製造業は今回値0.0（前回値14.3）悪化した一方、飲食・サービス業では、前回値▲14.35から今回値7.7、建設業は今回値50.0で（前回値33.3）、と回復傾向にある。全業種にて仕入価格が高止まり（前回値56.8→今回値47.4）。また、全業種にて引き続き雇用人員不足が広がっており、先行きも不足が続く見込み。10~12月の先行き業況は▲2.5（前回値2.4）と減少傾向である。

## 以下、産業別の各事業所から寄せられた景気動向の要因や今後の課題や重点事項など

【製造業】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DX化による業務プロセスの改革（木製品製造業）</li> <li>・新型コロナ禍の終息が見通せない中、一旦大幅に下がった原材料がコロナ禍以前の水準に戻ったため収益圧迫の主要因となっている（樹脂製品製造業）</li> <li>・原材料価格の影響を受け易い収益構造からの脱却（樹脂製品製造業）</li> <li>・陥没価格の是正、生産体制の合理化、各部門の省力化（樹脂製品製造業）</li> <li>・新規取引先の開拓、コストダウン（印刷業）</li> <li>・売上は横這いが続くなか、労務費の上昇・設備投資による収益力の低下。生産性の向上を図る（食品製造）</li> <li>・新規受注と研究開発（機械製造業）</li> <li>・コロナで注文増加。現人数で対応できる様、多能工化などで対応している。（精密機械製造業）</li> <li>・木材製品に付加価値をつけること（木製品製造業）</li> <li>・売上減少に対応するための就業体制や財務体質の改善（食品製造業）</li> </ul>
【建設業】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材確保、育成（建設工事業）</li> <li>・ITDX化の進化に対応しうるスキルやビジネスモデルを維持、推進し続けること（設備工事）</li> <li>・ウッドショックで国産材も高騰し品薄になっている、安定供給できるように努力する（建築業）</li> </ul>
【卸小売業】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校授業のIT化に対応が難しい（教材卸業）</li> <li>・本業以外の不動産事業を、もうひとつの事業の柱と考えている（建築材料卸業）</li> <li>・業務効率化に向けたIT化。新規事業への取り組み（石油類販売業）</li> <li>・コロナで半導体・部品が欠品。2か月~6か月待ち（自動車販売業）</li> </ul>
【サービス業】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年はコロナの影響を受けており売上大幅減。今期7月~9月は前年比増ではあるが前々年と比較すると依然70%~80%と厳しい状況が想定される。先が見えない環境下では投資を控えた集客策並びに内部のソフト面を中心とした強化に取り組んでいる（ホテル・飲食業）</li> <li>・緊急事態宣言等発令されるなどの影響で、業界が冷え込んでいる（クリーニング業）</li> <li>・事業の継承、継続（税理士）</li> <li>・価格競争が激しく材料費が高騰し、全体的に雰囲気がよくない（広告・企画制作）</li> <li>・コロナ禍であっても、スキルアップを目指し努力する（保険代理業）</li> <li>・人材確保（運送業）</li> <li>・コロナ禍が終息しないかぎり、今の状況から脱却するのはむずかしい（葬祭業）</li> <li>・コロナ対策で人の同行を制限している為、売上増加がむずかしい（コンビニエンスストア）</li> </ul>

業種別景況概要	全国(9月)		廿日市 7~9月と先行き見通し									
	全産業		全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	▲30.4	▲26.8	▲7.5	▲2.5	6.7	20.0	25.0	50.0	▲37.5	▲62.5	▲15.4	▲7.7
仕入価格	▲44.1	▲42.8	47.4	35.9	60.0	66.7	25.0	25.0	25.0	0.0	54.5	25.0
採算	▲34.4	▲33.3	5.0	2.5	6.7	13.3	50.0	50.0	▲12.5	▲37.5	0.0	0.0
雇用人員	10.1	12.5	▲23.1	▲17.9	▲13.3	▲13.3	▲75.0	▲75.0	▲25.0	▲12.5	▲16.7	▲8.3
業況	▲33.2	▲31.0	▲2.5	▲2.5	0.0	0.0	50.0	50.0	▲25.0	▲25.0	▲7.7	▲7.7

※ 全国調査は【日本商工会議所 LOBO 調査】をご参照ください

(対象 65 社 回答 40 社)

### ●DI値（景況判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断状況を表す。ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上など実数値の上昇や下降を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味する。

※DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

採算・業況：(好転)-(悪化)      収入・売上：(増加)-(減少)  
仕入価格：(上昇)-(下降)      雇用人員：(過剰)-(不足)

### DI値 数値の目安

特に好調	$50 \leq DI$
好調（上昇・過剰）	$25 \leq DI < 50$
まあまあ	$0 \leq DI < 25$
不振（下降・不足）	$\triangle 25 \leq DI < 0$
きわめて不振	$DI < \triangle 25$

### ■設備投資は？

回答 40 社中

7~9月			10月~12月 見込み
実施 した	土地	0	1
	建物	3	2
	機械	15	6
	車両	6	7
	IT機器	7	6
	その他	1	4
	計	32	26
実施していない・しない			22

### ■当面の問題点は？

※回答のその他はランク外扱い

第1位	新型コロナの影響がある	19.5%
第2位	材料費や仕入価格が上昇	13.3%
第3位	売上、需要が増えない	10.6%
第4位	従業員や人材の確保が難しい	9.7%
第5位	人件費が増加している	9.7%

